2016年（平成28年）
第104号
（8月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

かめおか宗教懇話会・総会　設立２０周年記念シンポジウム

７月９日、大本本部みろく会館において「かめおか宗教懇話会・総会　設立 20 周年記念シンポジウム」が行われ、京都教会からも多くの会員が拝聴しました。シンポジウムに先立ち、総会では宝積玄承議長あいさつに始まり、役員改選、平成 27 年度事業報告・会計報告、平成 28 年度事業計画・収支予算が無事可決されました。

設立 20 周年記念シンポジウムはテーマ「宗教間対話から世界平和を　～イタリア・アッシジ世界平和の祈りから 30 年～」と題し４名のパネラーが過去の活動報告、現在の活動報告、未来展望について各自、各団体の取り組みを紹介しました。最後に同懇話会副議長の佐藤益弘氏が言葉を述べ、閉式となりました。

◆宝積玄承師（臨済宗妙心寺派　東光寺先住職）

第二バチカン公会議以降に様々な宗教間対話が開催されてきた。原点はこの公会議で立正佼成会の庭野開祖が招待されたことによる。その後、ヨーロッパと日本の宗教間で各教団を訪問し合った。この流れから、かめおか宗教懇話会設立の機運が高まった。他の意見の違う人たちと交わることは家庭でも地域でも同じこと。20 年前の設立当時に尽力頂いた方がこの会場にもおられ、感謝申し上げる。９月にはアッシジで記念式典、来年８月には比叡山で宗教サミット 30 周年式典が行われる。

◆庭野統弘師（立正佼成会学林学長）

核兵器禁止宗教者平和使節団を組織するも帰国すれば解体され継続しない。どうすれば宗教間対話が継続できるかを庭野開祖が模索していた。マレラ枢機卿が 15 年間在日しており、日本の宗教状況をご存知であった。マレラ枢機卿がヨーロッパに帰国した際、バチカン公会議開催にあたり日本の仏教教団からの招待を勧めた。それにより庭野開祖が第二バチカン公会議に参加できた。諸宗教対話は教団の代表者のことではなく、日常生活の中で皆さんが行われている。日本ではいろんな宗教が生活に根差しているが他国では一つの宗教が多い。目の前の人を大切にして、明るく、やさしく、温かく生きる延長に世界平和があるように思う。

◆可児光永師（天台宗甲山寺住職）

山田恵諦猊下と庭野開祖は同じ法華経を信じ、2500 年前に霊鷲山で釈尊から説法を聞いていたと思っていた。二人は日本中の宗教が仏教母山である比叡山で一つになれると考え、30 年前、各教団代表者が集まり比叡山宗教サミットが開催された。

山田座主、庭野開祖をはじめ第一世代が全員亡くなられた。私自身は第一世代のご活躍を後世に伝えることと思っている。同じことは出来ないが、ちょっとだけ山田座主というように真似ごとをしていきたい。

◆田中雅道師（元大本国際愛善宣教課主幹）

大本神論の紹介。万教同根の精神、宗教対話、世界連邦運動。国連で解決できない諸問題を世界連邦が取り組んでいる。聖ヨハネ大聖堂で大本海外作品展を開催。イスラムのメッカで巡礼するまでの歴史を語る。東日本大震災への祈り、世界平和祈願祭の開催。カオダイ教との提携、仏教開教百周年式典の開催。

社会活動には「人類愛善会」という名称で活動している。一つの神をもち宗教協力で宗教同士の対立をなくす。世界連邦という一つの世界を作り国境をなくす。世界共通語である一つの言葉（エスペラント語）の普及を行う。

時事刻々

今年も「京の七夕」が開催されます。今回はこれまでの鴨川・堀川の両会場に加え、北野天満宮・二条城・岡崎・梅小路公園が加わり、さらに寺社や商店街も協賛事業を行います▼祇園祭の後、五山の送り火までの間のイベントとして、門川京都市長が提案して行われるようになりました▼天の川を隔てた彦星と織姫が年に一度、出会うというのが「七夕の伝説」。中国では織姫星にあやかり、旧暦の七月七日に裁縫や書などの上達を星に願う「乞巧奠（きっこうてん）」が行われていました▼日本では奈良時代から、機を織り租霊に捧げる「棚機（たなばた）」というお盆の行事と融合したものが、日本における「七夕の起源」と言われています▼七夕というと、願い事を書いた短冊や飾りを笹にかけて、星に祈りを捧げます。子どもたちの楽しみの一つになっています▼しかし、七夕はその起源から、先祖供養のひとつだということが分かります。「京の七夕」に参加して、先祖に思いを寄せるのも良いでしょう。

今月のことば　～「まず自分から」～　壮年部副部長　清水道浩

今月は、壮年部副部長の清水が担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

８月号の『佼成』では、会長先生より**「まず自分から」**をテーマにご法話を頂戴しております。前段では**「楽しく自然に」**ということを教えて頂いております。

〈道端のゴミについて〉

１．ゴミを拾うボランティアの人→清々しい

２.ゴミを捨てる人→公徳心を疑う→いらだち・怒　り（見方や受け取り方を変えてみる）

３．ゴミを捨てる人→自分はけっして捨てない→「まず自分から」ゴミを拾う→気持ちいい生活が送れる

４.「まず自分から」で大事なのは、**①自然な心のはたらきであること、②楽しみながら実践すること**

では４のようになるにはどうすれば良いのでしょうか？自分の行動を振り返ってみますと、私は職場でトイレ掃除をさせて頂いております。自らすすんで掃除をさせて頂いてはいるのですが、汚れているのを見るとついつい「コラッ(怒)」と思ったり、「誰が掃除したってると思ってんねん！」と他人を責める気持ちが湧いてきます。

自分が掃除しなくても、誰かがするだろうと思い何もしないでいると、誰かが掃除をしてくれた形跡はありましたが、頻度や仕方が納得できない。やはり自分がしようとキレイにさせて頂いております。そんな気持ちになるのはなぜかと考えてみますと、自分が気持ちよく生活したいのは勿論ですが、そのことで他人も気持ちよく過ごしてもらえると思うからです。なかなか仏の遊戯三昧とはいきませんが、「まず自分から」気持ちも行動も「楽しく自然に」を目指したいと思います。

そして後段の**「一人ひとりの慈悲心から」**では、熊本地震後における会員さんの行動力のお話しを元にして更にわかりやすく人として素晴らしい姿を説いて頂いております。困難な時にこそ、その人の人間性が表れます。「まず自分から」と率先躬行し、あるいは、「まず人さま」と心を砕く、その一人ひとりの思いやりの実践が大きな安心となること。また、「協力」という言葉の「協」の字について教えて頂いております。

私は、地元では社会体育振興会の役員として会議や行事への参加、佼成会では教会行事や壮年部活動、更に今年は政治社会委員として多忙な日々を過しております。何とか倒れずに済んでいるのは、家族の絶大なる「協力」と「愛情」によるお陰様です。

しかし、自分自身は忙しすぎで疲れも溜り自分のことしか考える余裕がなくなり、周り（特に家族）への心配りが出来ていません。

先日こんな事がありました。日曜日の夕方に壮年部行事から帰ってくると、妻は「頭が痛い」と寝込んでいました。こちらも疲れていたので妻を放ったらかしてテレビ（真田丸（ＢＳ））を見ていました。後から話しを聞くと軽い熱中症のようでした。その間、息子は私と違って、「大丈夫？」と心配顔。飲み物や軽い食事を運んだりして気遣っていました。それを見て私も遅ればせながら顔を見に行ったのですが後の祭りです。その日から妻は私のことを「真田丸」と呼ぶようになりました。まわりの人を思って「まず自分から」心を寄せ、力をあわせなければ、みんなが気持ちよく生きられる平和な世界は訪れませんと書いてあります。家庭の中のことでも本当にその通りだとつくづく思いました。

平和という意味では、積極的な行動だけがそのための「実践」ではなく、**批判したくなるような人や許し難い人を包容していくこと**、そういう意識の変革も、私たちの大切な実践行ではないでしょうか。と今月の結びのことばとして頂いております。

知らず知らずに周りの人を傷つけていますし、その反対に傷ついたり批判されたりもします。しかし、そこは教えて頂いている通りに、自分から慈悲心を発揮すれば気持ちよく生活していけると受け取らせて頂きました。まずは家庭から実践していきます。　合掌

少年少女フェスティバル

７月24日、大阪普門館で少年少女フェスティバルが開催され、京都教会からもバトン発表を行いました。朝は陀羅尼のご供養で始まり、○×クイズで楽しみ、「わらび座」の鑑賞も行いました。エンディングではわらび座の皆さんと大合唱をし、大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。

祇園祭宵山、宵々山で清掃奉仕

祇園祭の宵山、宵々山にあたる７月15、16日に京都市が行っている「祇園祭ごみゼロ大作戦」と連動して京都明るい社会づくり運動が歩行者天国の道路の清掃奉仕を行い、のべ51名の清掃ボランティアが参加しました。歩きながらゴミを拾いゴミステーションに集約しました。

（３面に関連記事）

ニコニコキッズ七夕まつり　～開祖さまを真似てこんな自分になりたい！～

７月３日、京都教会においてニコニコキッズ七夕まつりが行われ、多くの少年部員と保護者の方々が参加しました。

午前中に開祖さまの紙芝居を見て、開祖さまの人柄と人生に触れたあと、グループワークで開祖さまの良いところをみんなで出し合いました。

そして開祖さまを真似てどんな自分になりたいかを短冊に書いて笹に吊るしました。

お昼には流しそうめんを楽しみました。

■短冊に書かれた『願い』

- 開祖さまになりたい
- みんなにたよられる人になりたい
- 働いてみんなにお金をあげたい
- パパとママが困ってるときにたすけてあげたい
- 人にしんせつになりたい
- かいそさまのようにかっこよくなりたい
- お母さんとお父さんのいうことをきく
- パパとママをたすけたい
- どんなこともいっしょうけんめい頑張るかいそさまのようになりたい

など、いろんな願いの短冊が出来ました。

祇園祭曳き手ボランティア　～1,100 余年の歴史を肌で感じて～

７月 17 日、日本三大祭りの一つである祇園祭に曳き手ボランティアとして新宗連青年部と京都教会青年部から 21 名の参加があり、歴史を支える一員として活躍をしました。今回は保昌山を新宗連青年部が油天神山を京都教会青年部が担当しました。

巡行直前まで雨が降っていましたが、長刀鉾が９時に巡行を開始する頃にはすっかり雨があがり、気持ちの良い中でのボランティアとなりました。日曜日に重なったこともあり、多くの観光客がおられました。

また京都教会青年部ＯＢは沿道整備やボランティア本部の運営など巡行支援として活躍をしました。

３教会合同壮年交流法座　～めっちゃええおっちゃんになろう～

初めてとなる京都・奈良・滋賀教会３教会による壮年交流法座が、７月 17 日（日）に滋賀教会で行われました。

京都からも 29 名が参加し、総勢 71 名の壮年サンガが集い、後藤益巳滋賀教会長さんをはじめとする滋賀教会の皆さんから、真心のこもったおもてなしを受け、充実した一日を送らせて頂きました。中でも近江八幡市の散策では、案内ボランティアさんの説明もあり、理解が深まりました。

教会に戻り、体験説法のあと昼食のお弁当の他に手作りの冷やしうどんと天ぷらを頂き、さらにバトン披露などなど、次々と趣向を凝らしたおもてなしでした。

そして後藤教会長さんの研修では、『めっちゃええおっちゃん』になるため、相手のええとこを見出す壮年になるために、ほめる達人になろうということで、３S「すごい」「さすが」「すばらしい」を言いましょうと、とてもわかりやすく教えて頂きました。

そのあと、法座と所見発表で幕を閉じましたが、とても有意義でありがたい一日でした。

法華経にみる平和の教え『法華経の世界観』　～庭野開祖著『平和への道』より～

開祖は世界平和に向けて生涯を捧げました。開祖はその行動のバックボーンになったのが『法華経』だと繰り返し語っていました。今回から開祖が語る『法華経にみる平和の教え』を学びます。（紙面の都合で原文を編集していますので、詳しくは庭野開祖著の『平和への道』（佼成出版社）をご覧ください）　（編集部）

『妙法蓮華経』（法華経）の冒頭には釈尊の説法を聞くために集まっている会衆のことが述べられています。もろもろの菩薩、出家の修行者、在家の信者、まだ信者でない人々が、同じ平面に、同じ資格で座っています。さらに、霊界の神々、鬼神や竜神、その他の動物たち、つまり、宇宙全体のありとあらゆる生命体が、等しく説法の座に集まっているのです。

これは法華経の世界観の象徴にほかなりません。法華経の世界観を一口で言えば、「この世に存在するすべてのものには、目に見えぬ、ただ一つの本体がある。それは宇宙の大生命である。この世の万物は、この宇宙の大生命がさまざまな形をとって現れているのであるから、もともとは一体であり、したがって現象への現れは千差万別であっても、本質的には平等な存在である」ということです。

この世界観を、理論的に説かれたのが「諸法実相・十如是」の法門です。（如是相・如是性・如是体・如是力・如是作・如是因・如是縁・如是果・如是報・如是本末究竟等）

諸法の実相には、二通りの意味があります。第一は「万物には、目に見えぬ、ただ一つの本体がある」ということであり、第二は「万物はありのままのあり方が真実の相である」ということです。言葉を替えていえば、諸法実相の教えは、第一に「現象の奥にある実相（本体）を知れ」、第二に「現象の上の実相をも、よく見極めよ」ということを教えられたものです。

十如是の『如是相から如是報』までには、第二の「現象の上の実相をも、よく見極めよ」ということを教えられています。そして、最後の『如是本末究竟等』が第一の「万物には、目に見えぬ、ただ一つの本体がある」ということを説かれたものなのです。

わかりやすく説明しますと、「『相』から『報』までの、もろもろの現象や、その変化は、千差万別であるように見えるけれども、すべて、ただ一つの宇宙の真理にもとづくものであり、真の本体においては、初め(本)から終わり(末)まで、つまるところは等しい(究竟等)ところの〈空〉なのである」ということです。

ただこう言ったのでは、あまりにスケールが大き過ぎて、われわれの人生と、どう関連させて考えていいかわからないかもしれません。それを自分で、頭で考えていくことを、哲学的・宗教的思索といって、人間がほんとうに進歩していくために、たいへん大事なことなのですが、まだ、そういうことに慣れない方々のために、そのヒントを差し上げることにしましょう。

まず、すべての本体が一つである、ということになれば、見かけは別々の存在としか思えていない地球上三十億の人間が、その実相においては一体の存在だということが考えられませんか……。そのことを心の底から悟ることができたら、「人間は、みな兄弟姉妹なのだ」という友情の感情がシミジミと湧いてきて、ともに手を握り合い、肩を組み合っていこう、という思いで、胸の中が、暖かさと明るさに満ち満ちてくるのを覚えることでしょう。

「法華経は平和の教えである」と、わたしが強調するのは、その哲学的根拠をなす諸法実相の教えが、その奥に、広大無辺な慈悲の精神を潜ませているからにほかならないのです。

法華経の人間平等観は、ただ倫理的に「人間は平等だと見なければならぬ」といった押しつけがましいものではありません。根が深く、確固としており、いかなる現象に変化にも動かされるものではありません。世界平和の大きな支柱である人間平等の精神は、この法華経的な平等観に裏づけられたものでなければならぬと、私は信ずるのです。

８～９月の主な教会行事

8月1日(水)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4日(土)	9:00～	開祖さまご命日
10日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(水)	9:00～	戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日
9月1日(木)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日
10日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(水)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日 敬老者　健康長寿祈願
22日(木)	9:00～	秋季彼岸会

●メッセージ

相模原市の障がい者施設で 45 人が死傷した事件は日本国内のみならず世界にも衝撃を与えました。容疑者が「障がい者は安楽死させるべき」というような思想を持っていたと報道されています。言論の自由があるとはいえ、どうしてこのような思想を抱くようになったのか、何かの縁があったのだと思います。

また、そのような思想に傾いたとしても、縁によっては正しいものの見方に戻れると思うのです。この月報を読んで下さる皆さんの周りから健全な青少年育成を行い、明るく温かい世の中を作りたいものです。